周西公民館開館20周年記念誌

つなぐ周西



周西公民館開館20周年記念事業実行委員会
君津市周西公民館

目 次

あいさつ ---------- 2

巻頭特集　写真でみる周西の今昔 ---------- 5

第1節　すさい今昔

第2節　記録に残したい　すさいの今

第１章　地域と公民館の１０年 ---------- 15

第1節　10年のあゆみ

第2節　特集　2016-2025
台風・大雨災害　と　新型コロナウイルス　あのとき私たちは

第２章　公民館事業・取り組みのあゆみ ---------- 43

第1節　公民館事業・取り組みの変遷

第2節　公民館事業・取り組みの概要

第３章　地域の歴史・文化を未来へつなぐ ---------- 59

第1節　「すさい・まちの変化　100の記憶」が伝えるもの

第2節　【資料】周西地域史関連文献一覧

第４章　サークル・団体活動のあゆみ ---------- 67

第1節　サークル・団体活動のあゆみ（寄稿）

第2節　サークル・団体活動の変遷

第５章　資料・データ ---------- 89

施設概要、施設利用状況、人口、自治会長（市政協力員）、青少年相談員、公民館運営審議会委員、公民館だより編集委員、利用運営協議会・利用者の会役員、職員、20周年記念事業実施要項、20周年記念事業のあゆみ

編集後記 ---------- 103



開館20周年を迎えて

周西公民館開館20周年記念事業実行委員会 実行委員長 相場　明彦

周西公民館は平成18年５月に開館して以来、地域の公民館として今年で20年目の節目を迎えることが出来ました。利用団体や地域の関係機関・自治会など、様々な方々のご支援・ご協力に心より感謝申し上げます。開館10年目の記念誌には公民館ができるまでの経緯が記されています。また、10年前には50を超える団体が利用されており、地域の憩いの場となってきました。その後、新型コロナウイルス感染症のまん延により、人々の活動が制限され、休止を余儀なくされた団体も数多くありました。現在では、37となり、徐々に活気を取り戻してきています。

公民館は、人づくり、地域づくりの礎の機関として設置された社会教育施設です。今後も地域の課題や社会の変化に対応し、地域の過去・現在・未来をつなぐ役割を担っていただき、「また来たい」と思える、温かい公民館の運営を継続していってほしいと思います。また、老若男女が集う、生涯学習の拠点として、地域を盛り上げる土台となっていくことを願っています。

20周年事業では、防災学習、ＸＲ技術体験、聴覚障害理解の講演会、地域挙げてのモルック大会、記念式典・記念文化祭の開催、記念誌の発行と多くの事業が取り組まれています。これらの記念事業にご尽力いただいた実行委員の皆様、並びにサークルの皆様に心から感謝申し上げます。

結びに、これからも地域の皆様や利用団体の皆様など、多くの方からのご支援・ご協力をお願い申し上げましてご挨拶とさせていただきます。



開館20周年に寄せて

周西公民館　館長　五十嵐　徹

周西公民館は平成18年の開館以来、地域の皆様の温かいご支援のもと、晴れて20周年を迎えることができました。これまでの歩みに関わってくださったすべての方々に、心より感謝申し上げます。

この20年間、当館は「地域に根ざした生涯学習の拠点」として多様な事業を展開し、文化祭や公民館だより「はまっぺ」の発行などを通じて、世代を超えた交流を深めてまいりました。

令和元年の台風やコロナ禍による休館など多難な時期もありましたが、オンライン学習の提供や公民館の歌「きらめき」の制作など、工夫を凝らしながら地域との絆を繋ぎ続けました。現在は「すさい子どもキャンプ」の再開や従来通りの文化祭の実施など、日常の活気と子どもたちの笑顔を取り戻しております。

周西の丘小学校の開校や地域づくり協議会「周西ファンＢＡＳＥ」の発足、そして大学の開校を控えるなど、地域は常に進化を続けています。当館もこの大きな節目を新たなスタートラインとし、皆様が集い、共に豊かな未来を創造する場であり続けられるよう、職員一同精一杯努めてまいります。

結びに、本記念事業の実行委員会の皆様をはじめ、多方面から多大なるご支援とご協力を賜りました皆様に深く感謝申し上げ、開館20周年記念の挨拶といたします。



周西公民館開館20周年を祝して

君津市長　石井 宏子

周西公民館が記念すべき開館20周年の節目を迎えられましたこと、心よりお喜び申し上げます。

周西公民館は、地域の皆様の熱い思いと長年にわたる活動により、君津中央公民館周西分館から発展する形で、市内８番目の公民館として開館しました。今日までの20年の歩みは、地域住民や利用者をはじめ、関係する皆様が大切に育んでこられた賜物であり、深く感謝申し上げます。

これまで、サークルや団体活動をはじめ、地域の学びや交流の拠点として、多くの皆様に親しまれてきました。近年では、地域の歴史や文化を継承する取組に加え、周西地域を元気にしたいという思いを持つ方々が集まり、地域の課題解決に取り組む「周西ファンＢＡＳＥ」が公民館を拠点に活動するなど、新たな地域づくりの核としての役割も担っています。

本市が目指す将来都市像「ひとが輝き幸せつなぐきみつ」の実現に向け、公民館は、人と人をむすび、地域の歴史や文化を次の世代へつなぐ大切な役割を担っています。

この開館20周年が、これまでの周西地域の歩みを振り返るとともに、地域の皆様の絆をさらに深め、これからの地域づくりへとつながる新たな節目となることを願っております。

結びに、周西地域と周西公民館のさらなる発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



開館20周年記念誌発行に寄せて

君津市教育委員会　教育長　粕谷 哲也

周西公民館開館20周年、誠におめでとうございます。

この節目に、地域と公民館の軌跡を振り返り、これからの公民館の役割を見つめ直すため、20周年記念の各種事業に取り組み、記念誌が発行されることは、誠に意義深いことと存じます。

さて、この10年を顧みますと、令和元年房総半島台風をはじめとする災害や新型コロナウイルス感染症など、私たちの日常の暮らしや地域社会を揺るがす出来事が相次ぎました。

こうした状況にあっても、周西公民館は「つなぐ・つなげる・つながる」を掲げ、地域住民・利用者と常に共にある姿勢で困難な期間を乗り越えながら、まちの変化についての100人を超えるインタビューとその丹念な記録化、障がいや外国出身の方に焦点を当てた多様性理解・地域共生に資する活動、若者同士のつながりづくり、不登校や引きこもりへの理解を深める事業など、着実な取り組みを積み重ねてきました。

20年という歳月は、かつての「成人」の年齢にあたります。その節目を迎えた周西公民館が、地域のみなさまにとって、自己を磨き続けることができ地域の豊かな暮らしと学びを共に創る機関として、さらなる飛躍を遂げるよう、教育委員会としても取り組んでまいります。

これまで周西公民館を支えてこられた関係各位に深く感謝申し上げるとともに、今後のさらなる発展と、地域の皆様のご健勝を祈念いたします。

開館20周年記念誌「つなぐ周西」について

●タイトル「つなぐ周西」

周西公民館は、2019(令和元)年度より「つなぐ・つながる・つなげる」を運営のキャッチフレーズとしてきた。人と人、地域の関係性、地域の過去・現在・未来をつなぐ公民館の役割を示し、公民館自身もたくさんの人・モノ・コトとつながっていきたいという願いが込められている。

開館20周年記念誌を発行するにあたり、本誌の役割は、これまでの地域と公民館の歩みを振り返り（つなぐ）、今ある絆を次世代へ渡し（つなげる）、新たな出会いを生んでいく（つながる）ことにあるのではないかと考え、記念誌編集部会及び実行委員会役員会の議論により「つなぐ周西」となった。

●表紙

周西公民館外観。2026(令和８)年８月撮影。

●裏表紙

周西公民館マスコットキャラクターがデザインされた開館20周年記念ロゴマーク。左から「公馬ちゃん」「みどぼう」「すさゴン」

●本誌の対象期間

本誌は、開館10周年記念誌「ひだまり」発行後の2016(平成28)年度から2025(令和７)年度を主な対象としているが、必要に応じて、それ以前や発行年度である2026(令和８)年度についても言及している。

●執筆・編集分担

巻頭特集　写真でみる周西の今昔：編集委員
第１章　地域と公民館の10年
　第１節　10年のあゆみ：編集委員
　第２節　特集 台風・大雨災害と新型コロナウイルス あのとき私たちは：職員・編集委員
第２章　公民館事業・取り組みのあゆみ：職員
第３章　地域の歴史・文化を未来へつなぐ
　第１節「すさい・まちの変化 100の記憶」が伝えるもの：編集委員（小沢・朝生）・職員
　第２節【資料】周西地域史関連文献一覧：編集委員（小沢）
第４章　サークル・団体活動のあゆみ
　第１節　サークル・団体活動のあゆみ：寄稿
　第２節　サークル・団体活動の変遷：職員
第５章　資料・データ：職員
なお、校正作業は編集委員全員で行った。

●「周西地区」について

本誌における「周西地区」は、原則的には、周西公民館対象地区を表す。
(1) 君津市公民館の設置及び管理に関する条例における対象区域は次の通り。
　坂田、東坂田１～４丁目、西坂田１～４丁目、君津台１～３丁目、大和田、大和田１～５丁目、人見、人見１～５丁目、君津及び西君津の区域
(2) 上記区域における市政協力員設置自治会は、坂田、君津台東地区、君津台西地区、君津台南地区、君津台北地区、大和田、大和田団地第１・２・３・５・８・９・10・12区、人見、神門。市政協力員未設置自治会（団体）は、大和田寮、若草寮、パインズマンション君津ウエストタワー。（いずれも2026年8月時点）
なお、近隣のエリアを含めた表記として「周西地区」「周西地域」用いている場合もある。

巻頭特集

写真でみる周西の今昔



人見大橋（2026年4月 撮影）

通称「亀橋」と呼ばれるが、欄干にあるのは
亀ではなく妙見菩薩の使徒である「玄武」。

地域は、日々変化を遂げています。しかし、その記憶は曖昧になりがちです。

周西公民館だより「はまっぺ」では、第62号〔2021(令和３)年６月発行〕より「すさい今昔」を不定期連載し、地域の変化を記録してきました。この「すさい今昔」掲載写真と、今回の20周年記念誌発行にあたり、編集委員が集めた写真で、地域の「昔」と「今」を記録しました。

すさい今昔



2021年４月16日撮影



1979年４月23日撮影

君津駅北口・千葉銀行君津支店付近　（はまっぺ62号掲載）



2021年10月14日撮影



1983年８月25日撮影

国道16号線神門歩道橋付近　（はまっぺ64号掲載）



2022年10月6日撮影



1983年７月22日撮影
君津忠実屋と周西小学校跡地石碑

周西小学校跡地　（はまっぺ65号掲載）



2022年４月23日撮影



1981年11月14日撮影

君津駅北口 （はまっぺ66号掲載）



2022年７月18日撮影
解体中の様子



1981年11月14日撮影

ホテル千成 （はまっぺ67号掲載）



2022年10月20日撮影



1980年2月13日撮影

大和田団地Ｄ１棟バス停付近 （はまっぺ68号掲載）



2022年12月27日撮影
尾張屋



1981年11月14日撮影
イトーヨーカドー

イトーヨーカドー君津店（現尾張屋）付近 （はまっぺ69号掲載）



2023年12月撮影



1988年10月8日撮影
人見大橋と道路の開通式渡り初め

人見大橋 （はまっぺ72号掲載）



2025年12月30日撮影



1981年6月16日撮影

漁業資料庫・資料館 （はまっぺ73号掲載）



2024年撮影



1990年撮影

君津駅　改札口　（はまっぺ74号掲載）



2024年撮影



1990年撮影

君津駅　南口階段上　（はまっぺ74号掲載）



2024年６月30日撮影
日本製鉄東日本製鉄所君津地区正門



1985年８月19日撮影
新日本製鐵株式會社君津製鐵所

君津製鉄所正門　（はまっぺ79号掲載）

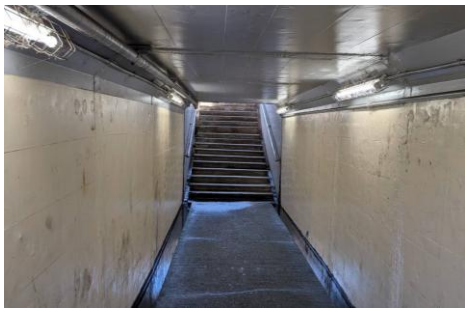
記録に残したい　すさいの今

特別な記載があるものを除き、記念誌編集委員または協力者による撮影



西いやさか通り　人見４丁目付近　2026.4





人見地下道 2026.7



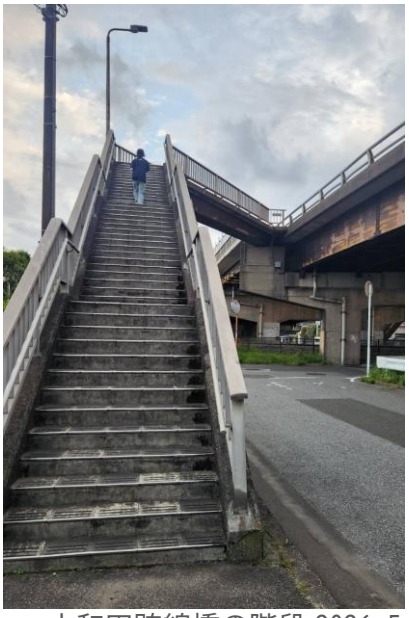
西いやさか通り　中富付近　2026.4



人見橋　2026.5



大和田跨線橋から
大和田団地を望む　2026.5



大和田跨線橋の階段 2026.5



周西橋　2026.5



旧大和田小　大学への改修工事へ　2026.5



国道 16 号線　神門の街並み 2026.4



大和田自治会館前 2026.5



大和田郵便局から大和田団地への坂道 2026.5



整備が進む大和田団地の様子 2026.5



大和田団地 2026.5



坂田大通り西坂田２丁目付近交差点 2026.5 ↑



坂田大通り西坂田３丁目付近 2026.5



人見山、大和田丘陵 遠景 2026.3 →



山の上各校と君津製鉄所（周西の丘小学校提供）2025.10



周西の丘小学校新校舎移転記念航空写真
（同校提供）2025.10



君津台２丁目から新関池を望む 2026.4



坂田のボーリング場・レストラン周辺 2024.2







君津駅北口ロータリー2022.4



君津駅北口周辺の商店街 2026.4



旧ホテル千成付近 2026.5



朝日に照らされる君津駅北口と君津市役所 2026.3